

## 2014年度第2回教養文化研究所主催公開講演会報告

教養文化研究所所長 廣野 行雄

実施日時：11月11日（月）13:20～14:50

講師：小澤 俊夫（おざわ としお）氏

題目：昔話が語る若者の姿

場所：駿河台大学7405教室（第2講義棟4階）

これから駿河台大学教養文化研究所の講演会を始めたいと思います。

本日はお忙しい中、また、あいにくの空模様で足場の悪いところを、駿河台大学教養文化研究所の講演会にご参加いただきまして、ありがとうございます。所長の廣野でございます。本日は、筑波大学名誉教授で、小澤昔ばなし研究所の所長でいらっしゃる小澤俊夫先生に、「昔話が語る若者の姿」という題でお話しいたきます。

小澤先生は1930年、昭和5年のお生まれで、日本大学、ドイツのマールブルク大学、筑波大学、白百合女子大学等の教授を歴任なさいます。1992年から全国各地で昔ばなし大学を開校され、1998年に小澤昔ばなし研究所を設立され、季刊誌『子どもと昔話』を刊行なさっておられます。また、『グリム童話考』『昔話の語法』など、多数の著書がおありになり、グリム童話の完全翻訳もお出しになっています。そのように、いわば日本の昔話研究の大家でいらっしゃる小澤先生にご講演をお願いするに当たっては、筑波大学で先生の教え子であった、本学現代文化学部の小林将輝准教授にお骨折りをいただきました。私と小林さんは同じ学部の同僚ですが、小林さんは実に聡明で有能でありながら、謙虚で気よくつく優しい人柄の方で、晩酌に飲むビールの銘柄以外は、大変、私と気の合う仲間です。先ほど初めて小澤先生にお目にかかりまして、なるほど、この師にしてこの教え子ありと。小林さんの人柄は小澤先生の感化によるものかと、大いに納得した次第です。

本日ここにお集まりの皆さんどなたも、子どものころ、おばあさんあるいはお母さんから聞かされたり、本で読んだりして昔話というものに出会ったという経験がおありになると思います。聞き手は子どもですから、強い印象を受けたとしても、大人のようにそれを解釈したり意味づけたりはしません。聞かされるまま、読んだとおりに受け取って、一応おしまいです。それはそれでしかるべきこと、貴い経験

だと私はと思いますが、本日は小澤先生に、その奥にあるもの、かつて心に受け取った何物かに形と名前を与えていたただけのではないかと思います。とりわけ、本日の演題は「昔話が語る若者の姿」ということで、学生諸君には非常に興味深いものがあるのではないのでしょうか。私も若者の一人として、正確にはかつての若者の一人として、お話を伺うのが楽しみです。それでは、小澤先生、どうぞよろしくお願ひします。